



## シグマ委員会 60 周年にあたって

## シグマ委員会・核データ研究グループ年表

(2023 年 2 月 8 日改訂)

○は月が不明な項目。日が分かるものは ( ) 内に日を示した。「シグマ委員会関係」には、シグマ委員会と核データ研究グループ (核データセンター) 関係の事項と主催した会合を、「関連事項」にはそれ以外を記した。関連国際会議は、主要なものだけとした。

年	月	シグマ・核データ研究 G r 関係	月	関連事項
1963 昭 38	1	昭和 38 年度原子力平和利用研究委託費 (核定数に関する試験研究のため) を受けるため、日本原子力学会に「シグマ委員会」の設立準備 (19,26 日 対策小委員会)	1	武蔵工大研究炉臨界 (30 日)
	1	日本原子力学会理事会「シグマ (臨時) 専門委員会」設置を承認 (28 日)	5	IAEA の INDSWG 第 1 回会合 (27-31 日、Vienna) に出席
	2	原研「シグマ研究委員会」設置 (28 日) 事務局は核物理第 1 研究室	8	日本原子力船開発事業団発足 (17 日)
	2	日本原子力学会「シグマ専門委員会」第 1 回会合 (14 日) 高速グループ、共鳴グループ、熱中性子グループにより、活動開始	8	原研 JPDR 臨界 (22 日 12:41)
	4	日本原子力学会「シグマ (臨時) 専門委員会」設置	10	原研 JPDR、初の原子力発電試験成功 (26 日)
	○	国内研究機関の設備リスト作成	○	原研 IBM7044 導入 (主記憶 32kW)
	○	ELIESE, STEVE 等の理論計算コード作成、熱中性子散乱断面積計算コード作成、共鳴パラメータの収集を開始	○	英国、AWRE Aldermaston と AEE Winfrith で評価済核データライブラリを編集 (1960 年から)
			○	米英カナダで 1956 年に創設された Tripartite Nuclear Cross Section Committee (TNCC) が OECD 参加の諸国を含むヨーロッパ・アメリカ核データ委員会 EANDC に拡大
1964 昭	2	「核定数」は「核データ」と言い替えることにする	4	日本、OECD に加盟
			5	ENEA/CCDN (中性子データ編集セン

年	月	シグマ・核データ研究G r 関係	月	関 連 事 項
39	4	CINDA グループ発足 ○ データシートによるデータ収集を開始、1969年3月まで継続する	5	IAEAによる初めての国内原子力施設査察
	12	炉定数グループ発足 (22日第1回会合)	6	京大炉臨界 (25日)
	12	日本原子力学会企画委に核データセンター設立について説明	○	IAEA、Nuclear Data Unit ができる (現 Nuclear Data Section (NDS))
1965 昭 40	4	データシートによる文献収集を本格的に始める	1	原研 JRR-4 臨界 (4日 3:15)
	6	日本原子力学会企画委「シグマ特別専門委員会」設置を承認 (15日)	2	日本、OECD/ENEA に準加盟 (23日)
	8	「高速中性子断面積研究会」(24-26日、原研東海)	5	原電東海炉臨界
	10	日本原子力学会「シグマ特別専門委員会」設置 ○ 熱中性子散乱断面積の評価開始 (~1968年) ○ 国内研究機関の設備リスト改訂	5	EANDC 第8回会合 (Los Alamos) にて日本の加盟を検討するため、オブザーバ出席
			6	日本、EANDC のメンバーとなる
			9	第4回 INDSWG 会議 (10-17日、東京)
			12	「Nuclear Data, Section A」創刊 ○ ENDF フォーマットが考案される
1966 昭 41	3	『JNDC ニュース』創刊	1	日本 ENEA/CCDN と ENEA/CPL に加盟
	3	EANDC へのプロGRESSレポート作成、以後毎年作成	2	「Nuclear Data, Section B」創刊
	6	原研 JPDR 関係者からの要請により、軽水炉燃焼計算用炉定数作成 (~8月)	3	Conf. Neutron Cross-Section Technology (22-24日、Washington)
	8	「第2回高速中性子断面積研究会」(18-20日、原研東海)	6	米国、CSEWG の第1回会合
	9	日本の測定要求リストまとめる	10	1 <sup>st</sup> IAEA Conf. Nuclear Data for Reactors (17-21日、Paris)
	11	C の全断面積評価開始(国内初の核データ評価) ○ PROF GROUCH 等の炉定数作成コード作成	○	西独、KEDAK-1 公開 (KfK-120)
1967 昭 42	○	「核データセンター構想」について検討	1	理研サイクロトロン完成 (25日)
	7	NAIG、MAPI、日立から原研理事長に核データセンター設立要望書提出 (20日)	1	フランスの高速増殖炉 RAPSODIE 臨界 (28日)
	7	日本原子力学会より原子力局長宛に「核	4	原研大洗研設置

年	月	シグマ・核データ研究G r 関係	月	関 連 事 項
		データの収集・整備の機関設立に関する 要望書」出る（25日） ○ 14 MeV 中性子による反応断面積評価を行 う ○ UKNDL と ENDF/B を入手	4 7 10 10	原研 FCA 臨界（29日） 原研、炉物理研究委員会設置（16日） 動燃事業団発足（2日） IAEA 事務総長 INDC の設置を認める ○ 英国、UKNDL-67 公開 ○ 「Table of Isotopes, 第6版」発行 ○ 米国、国立断面積センターNNCSC が作ら れる
1968 昭 43	2 3 3 6	「中性子断面積研究会」（15-17日、原研東 海） 熱中性子散乱に関する文献目録出版 熱中性子炉用炉定数 JNDC セット No.1 作 成 原研物理部に「核データ研究室」設置（1 日） ○ 熱中性子散乱断面積の評価終了	1 2 3 3 5 7	西独、原子力船オットーハーン号就航 4センター設立に関する打合せ（Saclay） 2 <sup>nd</sup> Conf. Nuclear Cross-Sections and Technology（4-7日、Washington） 原研 JMTR 臨界（30日） INDC 第1回会合に出席 米国、ENDF/B-I 公開
1969 昭 44	2 5 10	「第2回中性子断面積研究会」（13,14日、 原研） 「核データ情報・評価専門部会」、「炉定数 専門部会」発足 高速炉用炉定数 JAERI Fast Set 完成	5 6	米国高速実験炉 SEFOR 臨界（3日） 原子力船「むつ」進水（12日） ○ 原研 FACOM 230-60 を導入（主記憶 64kW） ○ EXFOR フォーマットが作られる
1970 昭 45	○ ○	ENDF/B-II 入手 評価作業開始（ <sup>238</sup> U(n,n'), Cr, Fe, Ni の捕獲 断面積）	3 6 7 8	原研 JRR-1 解体（31日） 2 <sup>nd</sup> IAEA Conf. Nuclear Data for Reactors（15- 19日、Helsinki） 4センター組織によるデータの交換 （EXFOR）開始 ○ 米国、ENDF/B-II 公開（53核種） 西独、KEDAK-2 公開（20核種）
1971	3	熱中性子炉用 FP 炉定数完成	3	3 <sup>rd</sup> Conf. Neutron Cross Sections and

年	月	シグマ・核データ研究G r 関係	月	関 連 事 項
昭 46	4	「核データ情報・評価専門部会」は「核データ専門部会」となる		Technology (15-17 日、Knoxville)
	5	「JAERI Fast Set の作成」が日本原子力学会特賞受賞 (27 日)	4	東大「弥生」臨界 (10 日)
	12	JENDL 0 次版の案検討 ○ 重核、構造材核種の核データ評価開始 ○ FP 核種の核データ評価開始 ○ 評価済核データの処理コード、実験データ格納検索システム作成開始	7	動燃、英 AEA と MORZART 計画調印 (8 日) ○ 原研 FACOM 230-60 増力 (主記憶 256 kW×2) REND A が IAEA に移り、WREND A となる
1972 昭 47	3	JENDL-0 次版案確定、JENDL-0 WG 発足 (17 日) JAERI Fast Set の基礎データの格納開始	4	ENEA が NEA と改名 (20 日)
	11	「第 3 回中性子断面積研究会」(9-11 日、原研) ○ Safeguards 核データリクエストの作業を検討 ○ 28FP 核種のデータ評価終了 (中性子エネルギー 100 eV-15 MeV)	5	日本が NEA への正式加盟決定 (9 日)
			8	原研増力リアック完成 (8 日)
			12	ソ連の高速増殖炉 BN350 臨界 (25 日) ○ 京大炉リアック増力 ○ 米国、ENDF/B-III 公開 (120 核種)
1973 昭 48	4	「燃料計量核データ専門部会」発足 ○ 捕獲断面積計算コード CASTHY を作成 ○ 核データ作図用コード SPLINT を作成 ○ JENDL-1 作成方針についての議論を重ねた	8	フランスの高速増殖炉 PHENIX 臨界 (31 日) ○ 英国、UKNDL-73 公開
1974 昭 49	3	第 17 回 EANDC 会合 (25-29 日、東京)	2	米国高温ガス炉フォートセントプレイン炉臨界
	3	「熱中性子炉用核分裂生成物炉定数の作成」が日本原子力学会技術賞受賞 (31 日)	3	放医研医療用サイクロトロン完成 (31 日)
	4	崩壊熱核データ WG 発足、FP 崩壊熱の評価開始	7	原子力産業新聞 4 面全体に「新たな役割を期待される核データ」掲載 (11 日)
	6	JENDL-1 編集グループ発足 (14 日) ○ JENDL-0 完成	8	原子力船「むつ」原子炉臨界 (28 日)
			9	原子力船「むつ」放射線もれ (1 日)
			11	国際エネルギー機関 (IAE) 発足 (18 日) ○ ENDF/B-IV 完成 ○ 北大で、荷電粒子核反応データベースの開

年	月	シグマ・核データ研究G r 関係	月	関 連 事 項
				発が始まる
1975 昭 50	3  9  12	27 FP 核種データ再評価終了 (10 <sup>-5</sup> eV-20 MeV) 日本原子力学会会長より原子力委員長宛に「核データ整備の専門機関設置に関する要望書」出る (12 日) INDC 議長より原子力委員長宛に手紙「Japanese Nuclear Data Center」(17 日) ○ <sup>241</sup> Am の核データ評価 (TRU 核種の評価の開始) ○ JENDL-1 の編集作業 ○ 炉定数作成コード PROF GROUCH G-2 開発	1  2  6  6	米国、AEC 廃止、エネルギー研究開発局 (ERDA) と原子力規制委員会 (NRC) が発足 (19 日) 米国、ENDF/B-IV 公開 (271 核種) 原研 NSRR 臨界 (30 日) 原子力産業新聞 6 面全体に「核データセンターの早期設置を」の原子力学会会長/日本学術会議副会長・伏見康治先生の記事掲載 (19 日) ○ EANDC, EACRP が NEANDC, NEACRP となる 原研 FACOM 230-75 導入 (主記憶 1024 kW×2) ○ 西独、KEDAK-3 の一部公開 IAEA/NDS、荷電粒子とガンマ線核データのネットワークを作る
1976 昭 51	4  4  8  10	「核データ研究室」が「原子核データ室」として認可組織となる 「核分裂生成物の核データライブラリの作成と評価」が日本原子力学会技術賞を受賞 (2 日) 『JNDC ニュース』を 37 号より『核データニュース』と改題 日本原子力学会で informal meeting 開催 (4 日、原研東海) 以後、(核データ・炉物理) 合同特別会合として継続している ○ JENDL-1 編集終了 ○ JENDL-1 のベンチマークテストを行う ○ JNDC FP Fast Reactor Constant System 完成 「核図表」第 1 版作成 (1977 年 2 月発行) ○	○  ○	核構造データの評価 (mass-chain 評価) が国際協力による評価体制で行われるようになる 米国、NNCSC が国立核データセンター (NNDC) になる
1977	3	JENDL-1 完成 (72 核種の核データを収録)	4	カーター大統領、新原子力政策に関する声

年	月	シグマ・核データ研究G r 関係	月	関 連 事 項
昭 52		(31日) 5 『核データニュース』に定期刊行物としての番号 (ISSN) が付く (通巻 39 号より) 7 「原子核データ室」が「核データセンター」と改名された (1日) 7 専門部会組織再編。「核構造・崩壊データ専門部会」発足 (15日) ○ Mass chain 評価に参加 (A=118-129) ○ シグマ研究委員会規約改定 ○ JENDL-1 公開 (秋) ○ 34 FP 核種のデータ評価終了 (JENDL には未格納) ○ JENDL-2 計画作成、評価作業開始 ○ 遮蔽炉定数作成コードシステム RADHEAT-V3 完成、遮蔽用炉定数 JSD100 を作成		明 (7日) 4 高速増殖炉「常陽」臨界 (24日) 9 原研「原子分子データ研究委員会」発足 (1日) 10 米国エネルギー省 (DOE) 発足 (1日) 12 NPT 保障措置協定発行 ○ 西独、KEDAK-3 の一部公開(46 核種となる)
1978 昭 53	12	「1978 年核データ研究会」(20,21 日、原研東海) 以降毎年開催 ○ 会話型核データ評価システム NDES を作成		1 OECD/NEA Data Bank 発足 3 新型転換炉「ふげん」臨界 (20日) 4 動燃と米国 DOE による日米共同大型高速炉臨界実験 (JUPITER Phase I) 実験開始 (～1979 年 9 月) 9 Int. Conf. Neutron Physics and Nuclear Data for Reactors and Other Applied Purposes (25-29 日、Harwell) 11 「第 21 回 NEACRP 会合」(6-10 日、東海) ○ 「Table of Isotopes, 第 7 版」発行 ○ 米国 ENDF/B-V 完成。一部のデータ (256 核種) を除いて非公開となる
1979 昭 54	3 11 11	日本の Mass chain 評価結果 (A=121) が「Nuclear Data Sheets 誌」に載る JENDL-2B 完成。JUPITER 実験の解析に供する 「JENDL-3 検討小委員会」発足 (16日)	3 10	米国、TMI 原発で事故 (28日) Int. Conf. Neutron Cross Sections for Technology (22-26 日、Knoxville) ○ Nuclear Reaction Data Center Network (NRDC)ができる

年	月	シグマ・核データ研究G r 関係	月	関 連 事 項
	12	「1979 年核データ研究会」(10,11 日、東海) ○ JENDL-3 計画の検討開始		
1980 昭 55	12	「1980 年核データ討論会」(10,11 日、東海) ○ 「核図表 1980 年版」作成(1981 年 2 月発行) ○ Fe 体系の 14 MeV 中性子漏洩スペクトルに対する JENDL-2 のテスト結果から、二重微分断面積の重要性が指摘される		○ 原研 FACOM M-200 導入 ○ 欧州で JEF (Joint Evaluated File) の作成を決定
1981 昭 56	1 11	「JENDL-3 検討小委員会」の答申が出る(16 日) 「1981 年核データ研究会」(26,27 日、東海) ○ JNDC FP 崩壊データファイル第 1 版完成(1172 核種の崩壊データを格納)	3 7 8	原研 FNS 完成(30 日) 米国レーガン大統領、核不拡散と平和利用協力に関し声明発表(16 日) (財)原子力データセンター発足(1 日)
				○ NEA Data Bank、JEF-1 の編集開始 ○ 英国、UKNDL-81 公開(UKNDL の最終版、82 核種+197 FP 核種) ○ ENSDF の管理が ORNL から BNL/NNDC に移る 阪大の強力 14 MeV 中性子工学実験装置「オクタビアン」による二重微分断面積の測定開始
1982 昭 57	5 6 11 12	シグマ特別専門委員会内規改訂(7 日) 医学用原子分子・原子核データ WG 設置、医学用データの検討を開始(4 日) 「1982 年核データ研究会」(24,25 日、東海) JENDL-2 公開(89 核種のデータを収録) ○ JENDL-3 の評価作業開始	8 8 9	原研タンデム加速器完成 JUPITER Phase II 実験開始(~1983 年 5 月) Int. Conf. Nuclear Data for Science and Technology(6-10 日、Antwerp)
				○ 原研 FACOM M-380 導入 ○ IAEA/NDS で IRDF-82 編集・公開
1983 昭 58	3 11	「核分裂生成物崩壊熱の実験的および理論的研究」が日本原子力学会論文賞受賞 「1983 年核データ研究会」(30 日-12 月 1 日、東海)	2 5 6 10	原研 JT-60 本体組立開始(22 日) 高速炉「もんじゅ」設置許可(27 日) EC の核融合実験装置 JET 運転開始(25 日) 米上院、クリンチリバー増殖炉予算を否

年	月	シグマ・核データ研究G r 関係	月	関 連 事 項
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ JENDL-2 の改訂、ファイルの完全化作業</li> <li>○ JENDL-3 のための評価作業</li> <li>○ JENDL-3PR1 作成(主要 8 核種のデータ収録)</li> <li>○ JNDC FP 崩壊データファイル第 1.5 版完成</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>決、建設計画中止 (16 日)</li> <li>○ 西独、KEDAK-4 公開</li> </ul>
1984 昭 59	3 3 10 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 24 回 NEANDC 会合 (12-16 日、原研東海)、NEANDC Topical Conf. (14 日)</li> <li>JENDL-2 改訂版完成</li> <li>JENDL-2 のための FP 100 核種の評価終了</li> <li>「1984 年核データ研究会」(13-15 日、東海)</li> <li>○ 「核図表 1984 年版」作成 (1985 年 3 月発行)</li> <li>○ Mass chain 評価、A=118-129 の評価を終了し第 2 回評価作業に入る</li> <li>○ 核種生成量評価コードシステム COMRAD と関連データライブラリ完成</li> </ul>	10 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>西独、KEDAK-4 の修正版公開 (KEDAK の最終版、57 核種)</li> <li>原研 JT-60 通電試験開始 (10 日)</li> <li>○ NEA Data Bank、JEF-1 完成、JEF-2 の作成開始</li> <li>○ 原研 FACOM VP-100 導入</li> <li>○ 原研 FNS を用いた日米核融合協力研究開始</li> </ul>
1985 昭 60	3 3 7 11 12	<ul style="list-style-type: none"> <li>JENDL-3PR2 作成</li> <li>「評価済核データライブラリ JENDL-2 の完成」が日本原子力学会特賞受賞 (28 日)</li> <li>「核融合ニュートロニクスにおける核データ検討会」(23-25 日、原研東海)</li> <li>「1985 年核データ研究会」(12-14 日、東海) 中国とインドネシアからの参加あり</li> <li>JENDL-2 のための 100 FP 核種データの最終編集終了。JENDL-2 は格納核種 181 となる</li> </ul>	3 4 4 5 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>つくば科学万博開幕 (17 日-9 月 16 日)</li> <li>原研那珂研設置</li> <li>原研 JT-60 ファーストプラズマ達成 (8 日)</li> <li>Int. Conf. Nuclear Data for Basic and Applied Science (13-17 日、Santa Fe)</li> <li>フランス高速増殖炉 super PHENIX 臨界 (7 日)</li> <li>NEA Data Bank、JEF-1 を加盟国に公開</li> <li>○ 中国、CENDL-1 完成 (37 核種)</li> <li>○ 科技庁、近隣諸国との原子力研究交流制度開始</li> </ul>
1986 昭 61	3 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>JENDL 特殊目的ファイルの答申が出る (14 日)</li> <li>JENDL-3 以降の計画検討委員会の答申出る (7 日)</li> </ul>	3 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>動燃、日米大型炉遮蔽ベンチマーク実験 (JASPER) 開始 (~1992 年 9 月)</li> <li>ソ連、チェルノブイリ事故発生 (26 日)</li> </ul>



年	月	シグマ・核データ研究G r 関係	月	関 連 事 項
	11	「1986年核データ研究会」(26,27日、原研東海)		
1987 昭 62	11	「1987年核データ研究会」(12,13日、原研東海) ○ JENDL-3Tの編集・積分テスト ○ 標準炉定数(JSSTD)の作成開始 ○ ( $\alpha, n$ )反応データファイルの作成開始	1 4 9 11	JUPITER Phase III 実験開始(～1987年12月) 日本原子力学会「原子炉崩壊熱基準」研究専門委員会発足 原研 JT-60 臨界プラズマ条件の目標領域に達成(17日) IAEA/NDS が FENDL の作成を決める ○ ソ連、BROND-1 を公開開始 ○ 「群分離・消滅処理技術研究開発長期計画(通称オメガ計画)」策定
1988 昭 63	5 9 12	「Int. Conf. on Nuclear Data for Science and Technology」(30日-6月3日、水戸) JNDC FP 崩壊データファイル第2版完成(1227核種の崩壊データ格納) 「1988年核データ研究会」(8,9日、原研東海)シグマ委員会25周年がトピックスとなる ○ 「核図表1988年版」作成(1989年6月発行) ○ JENDL 放射化断面積ファイルのための本格的評価作業開始 ○ 簡易入力核反応断面積計算システム SINCROS-I ができる	1 2 3 9	JUPITER IO 実験(～1988年2月)。この実験で動燃と米国 DOE との日米大型高速炉臨界実験終了 日本、国際熱核融合実験炉(ITER)計画参加決定(5日) 原研 BITNET に加入 Int. Reactor Physics Conf. (18-22日、Jackson Hole)
1989 平元	4 10 11 12	核データ専門部会改組、光核反応データ、荷電粒子核データ、PKA スペクトルの評価を開始 JENDL-3 完成(171核種のデータを収録) 「1989年核データ研究会」(16,17日、原研東海) JENDL-3 公開(12日)	3 4 8 10	低温核融合の論文発表 動燃と原電「大型高速炉用修正炉定数の研究」開始(～1992年3月) 日本原子力学会「原子炉崩壊熱基準」研究専門委員会、「原子炉崩壊熱とその基準」発表 OECD/NEA 核データ評価国際協力ワーキングパーティ(WPEC)発足

年	月	シグマ・核データ研究 G r 関係	月	関 連 事 項
				○ 核分裂発見 50 周年
1990 平 2	11	「1990 年核データ研究会」(29,30 日、原研東海) アジア地域シンポジウムと位置づけ、中国の研究者を招待	1	米国、ENDF/B-VI 公開開始 (26 日)
	12	JENDL-3.1 公開 (172 FP 核種のデータを追加し、全格納核種は 324 となる)	3	原研新 JRR-3 臨界 (22 日)
	12	「核融合炉用核データ専門家会議」(20,21 日、原研東海) JENDL-3 の核融合炉への適用性検討	4	Int. Conf. Physics of Reactors (23-27 日、Marseille)
		○ ESNIT 計画のため、50 MeV までの核データ評価を開始	6	NEA Data Bank、JEF-2 完成 (309 核種)
		○ SINCROS-II ができる	9	原研 JPDR 原子炉圧力容器解体撤去完了 (28 日)
				○ 原研 JT-60U 運転開始
				○ IAEA/NDS, IRDF-90 を編集
1991 平 3	3	「原子炉崩壊熱基準の作成」が日本原子力学会技術賞受賞	3	原研、評価済原子分子データライブラリ JEAMDL-3 完成
	7	JENDL Dosimetry File 91 公開	5	Int. Conf. Nuclear Data for Science and Technology (13-17 日、Jülich)
	7	JENDL Gas Production Cross Section File 公開	12	NEA の改組(核データ委員会 NEANDC と炉物理委員会 NEACRP の廃止と原子力科学委員会 NEANSC への吸収)、第 1 回 NEANSC 会合 (18,19 日、Paris)
	10	「第 1 回高エネルギー核データ専門家会議」(3,4 日、原研東海)		○ 中国、CENDL-2 を公開 (49 核種)
	10	JENDL-3 第 2 改訂版 (JENDL-3.2) 作業開始		○ 米国、ENDF/B-VI 完成 (320 核種)
	11	「1991 年核データ研究会」(28,29 日、原研東海)		○ 京大炉に鉛スペクトロメータ (KULS) を設置
1992 平 4	5	NEANSC 「FP 核データ専門家会議」(25-27 日、原研東海)	2	NEA Data Bank、JEF-2.2 公開 (314 核種)
	11	「1992 年核データ研究会」(26,27 日、原研東海)	7	ITER 工学設計活動開始
		○ JENDL-3.2 のための作業	9	JASPER 終了
		○ 「核図表 1992 年版」作成 (1993 年 2 月発行)		○ ロシア、BROND-2 公開 (121 核種)
				○ 核分裂炉 50 周年
1993 平 5	2	「シグマ委員会創立 30 周年講演会」(12 日、富国生命ビル)	1	NEA Data Bank、JEF を完全公開にする
			1	「あかつき丸」東海港入港 (5 日)

年	月	シグマ・核データ研究G r 関係	月	関 連 事 項
		4 原研の組織改正で、核データセンターが、 原子炉工学部に入る 4 高エネルギー評価 WG を設置し、高エネ ルギー評価を開始 7 「共分散専門家会議」(15,16 日、原研東 海) 11 「1993 年核データ研究会」(18,19 日、原 研東海)		5 NEA Think Tank 会合 (27 日、Paris) 9 原研リニアック運転終了、年末に閉鎖、翌 3 月解体撤去完了 9 GLOBAL'93 開催 (12-16 日、Seattle、この シリーズの一回目) 10 FNS を用いた日米核融合協力研究終了 ○ ロシア、BROND-2.2 完成 (121 核種) ○ 中国、CENDL-2 改訂 (54 核種)
1994 平 6		4 「核構造・崩壊データ専門部会」が「核燃 料サイクル専門部会」と改称 6 JENDL-3.2 公開 (340 核種) 11 「1994 年核データ研究会」(17,18 日、原 研東海)		3 International Science and Technology Center (ISTC)発足 (Moscow) 4 高速炉原型炉「もんじゅ」初臨界 (5 日) 4 核反応データセンター協力調整に関する 助言者会議 (25-27 日、Paris) 5 Int. Conf. on Nuclear Data for Science and Technology (9-13 日、Gatlinburg) 6 原子力委員会、原子力長期計画を発表 12 NEA Data Bank のホームページ開設 ○ 米国、NNDC ホームページ開設 ○ 米国、ENDF/B-V を完全公開 ○ EC、EFF-2.4 を公開 ○ 「医学物理データブック」が発行される
1995 平 7		1 「第 2 回高エネルギー核データ専門家会 議」(26,27 日、原研東海) 2 メーリングリスト JNDCmail の試験運用 開始 (1 日) 2 核データセンターのホームページ開発開 始 (6 日) 3 核データセンターのホームページを限定 公開 (1 日) 4 核データセンターのホームページを公開 (3 日) 8 WWW 版核図表を作成・公開 (以後毎年更 新)		2 原研、STACY 初臨界 5 NEANSC 国際核データ実験活動ワーキン グパーティ(WPINDMA)第 1 回会合(16,17 日、Paris) 6 原研 JPDR 解体 10 原研関西研設置 12 原研 TRACY 初臨界 (20 日) ○ 原子力船「むつ」廃止 ○ 米国、ENDF/B-VI.3 を公開 ○ 中国、CENDL-2.1 を公開 (67 核種)

年	月	シグマ・核データ研究G r 関係	月	関 連 事 項
	11	「1995 年核データ研究会」(16,17 日、原研東海)		
	11	「日露光核反応データ評価ワークショップ」(14,15 日、原研東海)		
	11	「第 3 回核融合炉核データ専門家会議」(29,30 日、原研東海)		
1996 平 8	3	JENDL Activation Cross Section File 96 を公開(11 日、233 核種、1246 反応)	○	Table of Isotopes 8-th edition
	4	「第 1 回核データインターネットシンポジウム」(8 日-6 月 15 日)	○	米国、ENDF/B-VI.4 を公開
	5	マイナーアクチニド核データに関する日露ワークショップ (27-31 日、原研東海)		
	11	「1996 年核データ研究会」(21,22 日、原研東海)		
		○ 「核図表 1996 年版」作成 (1997 年 5 月発行)		
		○ JENDL-3.2 の問題点を調査 (JENDL-3.2 問題点検討小委員会)		
1997 平 9	4	JENDL-3.3 開発開始	2	IAEA/NDS、FENDL-2.0 完成
	9	「JENDL-3.2 PLOTS and DATA」CD-ROM を発行	5	Int. Conf. on Nuclear Data for Science and Technology (19-24 日、Trieste)
	11	「1997 年核データ研究会」(27,28 日、原研東海)	○	IAEA、FENDL-2.0 を公開
		○ JENDL-3.2 重核の遅発中性子データを修正し、update file を公開		
1998 平 10	3	「第 3 回高エネルギー核データ専門家会議」(30,31 日、原研東海)	10	米国、ENDF/B-VI.5 公開
	4	原研の組織改正で、核データセンターが、エネルギーシステム研究部に入る	11	原研 HTTR 初臨界 (10 日)
	11	「1998 年核データ研究会」(19,20 日、原研東海)	○	IAEA、核データモデル計算のための標準入力パラメータライブラリーRIPL-1 完成
		○ 原研、シグマ研究委員会見直し		
1999	1	「遅発中性子核データ専門家会議」(28,29	6	米国、ENDF/B-VI.6 を公開

年	月	シグマ・核データ研究G r 関係	月	関 連 事 項
平 11		<p>日、原研東海)</p> <p>4 新たなシグマ研究委員会規程が施行される (1日)</p> <p>4 JENDL Fusion File 99 公開</p> <p>6 『核データニュース』通巻 100 号発刊</p> <p>7 JENDL Dosimetry File 99 公開</p> <p>10 「光核反応ワークショップ」(25,26日、原研東海)</p> <p>11 「1999年核データ研究会」(18,19日、原研東海)</p> <p>○ シグマ検討小委員会を編成し、核データ部会設立について検討 (10-12月)</p>		<p>9 「第10回原子炉ドシメトリー国際シンポジウム」(12-17日、大阪)</p> <p>9 日本原子力学会に標準委員会設立 (22日)</p> <p>9 JCO 臨界事故発生 (30日)</p> <p>10 「第9回放射線遮蔽国際会議 (ICRS-9)」(17,22日、つくば)</p>
2000 平 12		<p>6 NEA 核データ評価国際協力ワーキングパーティ (WPEC) 会合 (20,21日、原研東海)</p> <p>6 JENDL FP Decay Data File 2000 公開 (1229核種)</p> <p>11 「2000年核データ研究会」(16,17日、原研東海)</p> <p>○ 「核図表 2000年版」作成 (2001年6月発行)</p>		<p>3 「日本原子力学会核データ部会」発足 (30日)</p> <p>4 理研、核データの国際協力から撤退</p> <p>4 米国、ENDF/B-VI.7 を公開</p> <p>11 CERN の n_TOF 運転開始</p> <p>○ 理研、新潟大、東北大グループ、魔法数 16 を発見</p> <p>○ サイクル機構、高速炉用統合炉定数 ADJ2000 を開発</p>
2001 平 13		<p>2 「炉定数整備専門家会議」(22,23日、原研東海)</p> <p>5 学会誌連載講座「核データ」(~8月)</p> <p>10 「ND2001, Int. Conf. on Nuclear Data for Science and Technology」(7-12日、つくば)</p>		<p>10 米国、ENDF/B-VI.8 を公開</p> <p>10 中国、CENDL-3 の FP 核種 (101核種) のデータを公開</p> <p>12 特殊法人等整理合理化計画が閣議決定 (19日)</p> <p>○ 原研・KEK、大強度陽子加速器の施設建設開始</p>
2002	3	JENDL-3.3 完成	4	NEA Data Bank、JEFF-3.0 を公開 (340核

年	月	シグマ・核データ研究G r 関係	月	関 連 事 項
平 14	5 9 11	JENDL-3.3 のプレス発表とデータ公開(10日、337核種) 「JENDL-3.3 DATA & FIGUERS」CD-ROMを発行 「2002年核データ研究会」(21,22日、原研東海) ○ 『核データニュース』のpdf化開始 ○ 次期 JENDL について検討(次期 JENDL 検討小委員会)		種+5 熱中性子散乱則データ)
2003 平 15	2 2 11	『核データニュース』シグマ委員会 40周年記念号 JENDL/AN-2003 公開 「2003年核データ研究会」(27,28日、原研東海)		
2004 平 16	3 3 3 11	JENDL/HE-2004 公開 JENDL/PD-2004 公開 「Japanese Evaluated Nuclear Data Library Version 3 Revision-3: JENDL- 3.3」日本原子力学会賞論文賞を受賞(29日) 「2004年核データ研究会」(11,12日、原研東海) 「核図表 2004年版」作成 ○	9	ND2004 – Int. Conf. on Nuclear Data for Science and Technology (September 26 - October 1, Santa Fe, New Mexico, USA)
2005 平 17	6 9 10 10 11	JENDL/AN-2005 公開 原研「シグマ研究委員会」終了 核データセンターが「核データ評価研究グループ」となる(1日) 『核データニュース』No.82 から印刷版をやめ、WWW 上での掲載のみとなる 「2005年核データ研究会」(17,18日、原子力機構東海)	5 10	NEA Data Bank、JEFF-3.1 を公開 独立行政法人日本原子力研究開発機構発足(1日)

年	月	シグマ・核データ研究G r 関係	月	関 連 事 項
2006 平 18		原子力機構「シグマ委員会」が設置される	12	米国 NNDC、ENDF/B-VII.0 を公開
2007 平 19	3	「統合核データ評価コード CCONE の開発」が日本原子力学会賞特賞・技術賞、「核子-原子核に対する広域的な光学模型ポテンシャルのチャンネル結合法による統一的記述」が同奨励賞を受賞（26日）	1	「2006年度核データ研究会」（25,26日、テクノ交流館リコッティ、これ以降は日本原子力学会核データ部会が主催）
	12	JENDL/HE-2007 公開（28日、106核種）	4	ND2007 – Int. Conf. on Nuclear Data for Science and Technology (April 22 - 27, Nice, France)
			4	北大「原子核反応データベース研究開発センター」設置
			11	「2007年度核データ研究会」（29,30日、テクノ交流館リコッティ）
2008 平 20	3	JENDL/AC-2008 公開（24日、79核種）	5	J-PARC/MFL 中性子源に初ビーム（30日）
	6	NEA 核データ評価国際協力ワーキングパーティ（WPEC）会合（5,6日、原子力機構東海）	11	「2008年度核データ研究会」（20,21日、テクノ交流館リコッティ）
			12	J-PARC/MFL 利用開始（23日）
2009 平 21	4	「日本最初の評価済核データライブラリ JENDL-1」が日本原子力学会原子力歴史構築賞を受賞（21日）	2	OECD/NEA Data Bank、JEFF-3.1.1 を公開（25日）
			2	日本原子力学会創立 50 周年
			11	「2009年度核データ研究会」（26,27日、テクノ交流館リコッティ）
2010 平 22	2	シグマ委員会の名称を変更することになる	3	『核データニュース』の編集が日本原子力学会核データ部会に移る
	3	「JENDL アクチノイドファイル 2008」が日本原子力学会賞技術賞を受賞（26日）	4	原子力機構第 2 期中期計画開始
	3	JENDL-4.0 完成（406核種）（31日）		ND2010 – Int. Conf. on Nuclear Data for Science and Technology (April 26-30, Jeju Island, Korea)
	4	JENDL-4.0 完成のプレス発表（15日）	11	「2010年度核データ研究会」（25,26日、九大筑紫キャンパス）
	5	原子力機構「シグマ委員会」を「JENDL 委員会」と改称		
	5	JENDL-4.0 公開（28日、406核種）		
	9	「JENDL-4.0 DATA & FIGURES」DVD-		

年	月	シグマ・核データ研究G r 関係	月	関 連 事 項
	11	ROMの配布開始(9日) 「核図表 2010年版」作成		
2011 平 23			3 11 12	福島第一原子力発電所事故 「2011年度核データ研究会」(16,17日、 テクノ交流館リコッティ) ENDF/B-VII.1公開
2012 平 24	3 7 9	「JENDL-4.0」が日本原子力学会賞技術 賞・特賞を受賞 JENDL/FPD-2011 及び FPY-2011 公開 JENDL-4.0u 公開開始	3 11	JEFF-3.1.2 公開 「2012年度核データ研究会」(15,16日、 京大原子炉実験所)
2013 平 25	2	『核データニュース』シグマ委員会 50周 年記念号	3 11	核データ国際会議 ND2013 (26-30日、米 国・ニューヨーク) 「2013年度核データ研究会」(14,15日、 福井大国際原子力工学研究所)
2014 平 26	4	核データ評価研究グループが「核データ 研究グループ」となる(1日)	3 11	NEA データバンク将来計画検討タスク フォース(DBTF)第一回会議開催(13日) 「2014年度核データ研究会」(27,28日、 北大)
2015 平 27	3 11	「原子力機構核図表 2014年」公開 JENDL-4.0/HE 及び JENDL/DDF-2015 公開	4 11 12	原子力機構第3期中長期計画開始 「2015年度核データ研究会」(19,20日、 いばらき量子ビーム研究センター) IUPACによる113番元素発見認定(31日)
2016 平 28			○ 4 6 9 11	BROND-3.1 公開 NEA データバンク運営委員会(NSC EG) を科学委員会(NSC)から分離・MBDAV に改称(21,22日) NEA MBDAV 第一回会合(21,22日) 核データ国際会議 ND2016(11-16日、ベル ギー・ブルージュ) 「2016年度核データ研究会」(17,18日、 KEK つくばキャンパス)
2017 平	10	学会誌連載講座「核データ研究の最前線」 (～2018年6月)	11	「2017年度核データ研究会」(16,17日、 東海村産業・情報プラザ)



年	月	シグマ・核データ研究G r 関係	月	関 連 事 項
29	12	JENDL/PD-2016 公開 (28 日)		JEFF-3.3 公開 (20 日)
2018 平 30	3	JENDL/AD-2017 公開 (30 日)	2 11	ENDF-B/VIII.0 公開 (2 日) 「2018 年度核データ研究会」(29,30 日、東工大)
2019 令元	4 6 8	学会シグマ委員会が特別研究専門委員会から調査専門委員会に移行 「原子力機構核図表 2018 年」公開 JENDL/ImPACT-2018 公開 (30 日)	5 11	核データ国際会議 ND2019 (19-24 日、中国・北京) 「2019 年度核データ研究会」(28,29 日、九大筑紫キャンパス)
2020 令 2	2	JENDL/PD-2016.1 公開	6 11	CENDL-3.2 公開 (12 日) 「2020 年度核データ研究会」(26,27 日、理研和光キャンパス)
2021 令 3	2 12	JENDL/DEU-2020 公開 (10 日) JENDL-5 公開 (27 日)	9 11	NEA Data Bank 事務局組織の改組・NSC 事務局との統合 (1 日) 「2021 年度核データ研究会」(18,19 日、オンライン)
2022 令 4			4 7 11	原子力機構第 4 期中長期計画開始 核データ国際会議 ND2022 (24-29 日、米国・サクラメント) 「2022 年度核データ研究会」(17,18 日、近大)
2023 令 5	2	『核データニュース』シグマ委員会 60 周年記念号		

## シグマ特別専門委員会歴代主査

1963.04-1974.05	百田 光雄
1974.06-1980.06	塚田甲子男
1980.07-1985.05	原田吉之助
1985.06-1990.06	鹿園 直基
1990.07-1992.06	石井 光彦
1992.07-1998.06	中嶋 龍三

1998.07-2002.06 吉田 正

2002.07-2011.03 井頭 政之

2011.04-2015.03 渡辺 幸信

2015.04-2019.03 千葉 敏

## シグマ調査専門委員会歴代主査

2019.04-2023.03 深堀 智生

## シグマ研究委員会歴代委員長

1963.02-1974.03	百田 光雄
1974.04-1980.03	塚田甲子男
1980.04-1985.03	原田吉之助
1985.04-1990.10	鹿園 直基
1990.11-1993.03	石井 光彦

1993.04-1994.03 平岡 徹

1994.04-1995.03 吉田 弘幸

1995.04-1997.03 村尾 良夫

1997.04-2000.09 中川 正幸

2000.10-2002.09 落合 政昭

2002.10-2005.09 岩村 公道

## JENDL 委員会歴代委員長

2006.04-2007.03 長谷川 明

2007.04-2012.03 吉田 正

2012.04-2014.03 大澤 孝明

2014.04-2017.03 山野 直樹

2017.04-2023.03 中島 健

2 年報等

- シグマ委員会, 「シグマ委員会 2 年報 1963-1964」, 原子力学会誌, 7[5], 248-252 (1965).
- シグマ委員会, 「シグマ委員会 2 年報 1965-1966」, 原子力学会誌, 9[10], 604-610 (1967).
- シグマ委員会, 「シグマ委員会 2 年報 1967-1970」, 原子力学会誌, 14[2], 70-78 (1972).
- シグマ委員会, 「シグマ委員会 2 年報 1971-1972」, 原子力学会誌, 15[12], 832-842 (1973).
- シグマ委員会, 「シグマ委員会 2 年報 1973-1974」, 原子力学会誌, 17[12], 645-652

(1975).

- シグマ委員会, 「シグマ委員会 2 年報 1975-1976」, 原子力学会誌, 19[12], 814-821 (1977).
- シグマ委員会, 「シグマ委員会 2 年報 1977-1978」, 原子力学会誌, 21[11], 840-847 (1979).
- シグマ委員会, 「シグマ委員会 2 年報 1979-1980」, 原子力学会誌, 24[2], 122-130 (1982).
- シグマ委員会, 「シグマ委員会 2 年報 1981-1982」, 原子力学会誌, 25[12], 993-1003 (1983).
- シグマ委員会, 「シグマ委員会 2 年報 1983-1984」, 原子力学会誌, 27[12], 1114-1123 (1985).
- シグマ委員会, 「シグマ委員会 2 年報 1985-1986」, 原子力学会誌, 29[11], 982-991 (1987).
- シグマ委員会, 「シグマ委員会 2 年報 1987-1988」, 原子力学会誌, 32[1], 56-64 (1990).
- シグマ委員会, 「シグマ委員会 2 年報 1989-1990」, 原子力学会誌, 33[12], 1142-1150 (1991).
- シグマ委員会, 「シグマ委員会 2 年報 1991-1992」, 原子力学会誌, 36[1], 60-67 (1994).
- シグマ委員会, 「シグマ委員会 2 年報 1993-1994」, 原子力学会誌, 37, 1095-1103 (1995).
- シグマ委員会, 「シグマ委員会 2 年報 1995-1996」, 原子力学会誌, 39[12], 1019-1027 (1997).
- シグマ委員会, 「シグマ委員会 2 年報 1997-1998」, 原子力学会誌, 41[12], 1213-1221 (1999).
- シグマ委員会, 「シグマ委員会 2 年報 1999-2000」, 原子力学会誌, 44[1], 106-114 (2002).
- シグマ委員会, 「シグマ委員会 2 年報 2001-2002」, 原子力学会誌, 45[12], 808-810 (2003).
- シグマ委員会, 「核データが原子力研究開発の礎となるために」, ATOMOS, 64[7], 413-414 (2022).

#### その他のシグマ委員会の歴史に関する参考文献

- 中嶋龍三, 「原子力における核データーその歴史と展望ー」, 原子力学会誌, 23[7], 465-469 (1981).
- 中嶋龍三, 「20 周年記念講演: シグマ委員会 20 年を振り返って, 1982 年核データ研究会報文集, JAERI-M83-041, 2-8 (1983).